

## 令和5年度人生100年時代シニア活躍推進県民会議

日 時 令和5年12月14日(木)  
午後2時00分～午後3時30分  
場 所 県庁西庁舎110号会議室

### 1 開 会

### 2 あいさつ

#### ○健康増進課 高山企画幹

それでは皆様、定刻になりましたので、ただいまから、令和5年度人生100年時代シニア活躍推進県民会議を開会いたします。私は長野県健康福祉部健康増進課の高山と申します。どうぞよろしく願います。

初めに、開会に当たり、福田健康福祉部長よりご挨拶申し上げます。

#### ○健康福祉部 福田部長

皆様、こんにちは。長野県健康福祉部長の福田雄一でございます。本日はお忙しい中、県内各地から、また各団体からお集まりをいただき誠にありがとうございます。

開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては日頃から県政の推進、さらには健康福祉行政全般につきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、人生100年時代を迎え、誰もが元気で安心して確かな暮らしが営める社会づくりが大変重要な課題になっています。こうした課題を踏まえ、今年度からの県の総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」においては、政策の柱の一つである「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」の中に、「高齢者の活躍支援」が明記されており、シニア世代が培ってきた豊富な知識と経験を社会参加や仕事等で生かして、地域の担い手として多様な活躍ができるよう取組を行っています。

本日の会議におきましては、県長寿社会開発センターの内山理事長に座長をお願いし、総合5か年計画を踏まえて「30年後の個人、地域や社会」について関係機関、団体の皆様と考えるワークショップを行うことで、改めて事業の方向性や相互の連携について共有を図り、加えてご参加いただきました皆様にも必ず訪れる将来について、自分事として、また自分の組織のこととして考えるきっかけとしていただければと思います。

結びに、皆様方からの忌憚のないご意見をお願い申し上げますとともに、本日の会議が今後の事業展開を図る上で有意義なものとなることをご期待申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願います。

#### ○健康増進課 高山企画幹

福田部長は所用がございましたので、ここで退席させていただきます。

### 3 会議事項

#### ○健康増進課 高山企画幹

それでは、会議次第に沿いまして進めてまいります。

ここからの進行は長野県長寿社会開発センターの内山理事長にお願いしたいと思います。

それでは、内山理事長、よろしくお願いいたします。

#### ○内山理事長

皆さん、こんにちは。御紹介いただきました、長野県長寿社会開発センターの理事長の内山二郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日は、この県民会議の全体の進行、ナビゲーターをさせていただきます。そして、長寿社会から、今日皆さんのこのグループワークがとてもスムーズに進むようにということでスタッフとしてシニア活動推進コーディネーターが来ております。

それでは、まずはじめに県から「人生100年時代シニア活躍推進事業」についてご説明いただきます。よろしくお願いいたします。

#### ○健康福祉部 関口主事

皆様、本日はお集まりいただきましてありがとうございます。健康増進課の関口と申します。本日はよろしくお願いいたします。

人生100年時代シニア活躍推進事業について説明いたします。本事業は昨年度まで「人生二毛作社会推進事業」という事業名でしたが、今年後からは「人生100年時代シニア活躍推進事業」として、少子高齢化が加速する中、シニアの多様な活躍を推進するということを目指し施策を進めており、シニア世代が知識や経験を仕事や社会参加で生かして、地域で様々な活躍をできる体制づくりを行っています。

まず、昨年度まで「人生二毛作推進事業」という名前でしたが、事業名を変更した理由の一つにライフスタイルの変化があります。これまで教育を受け仕事し、退職した後第二の人生を歩むという、いわゆる単線型のライフスタイルでしたが、現在では教育を受けるところから並行して多様な活動を行えるような社会になってきており、人生の選択肢の幅が広がっています。「人生二毛作」という名称は、人生を作物の二毛作に当てはめて、退職後にもう一度人生を充実させるという意味合いでありまして、まさに単線型のライフスタイルをイメージさせるという言葉であることから、これからのライフスタイルにはそぐわないとして、昨年度の県民会議を経て、今年度から本事業名に変更をさせていただいております。

本事業の背景を説明いたします。長野県の人口推移と将来設計について説明します。長野県の高齢化率を見ると、既に2020年には3人に1人が高齢者となりましたが、これから約30年後の2045年には、約2.3~4人に1人が高齢者になると推測されており、全国的に見てもかなり早いペースで高齢化が進んでいるということが伺えます。令和4年度の高齢者白書では、長野県は2045年には全国9位の高齢化率になるということが予想されています。高齢化率が高い長野県ですが、同時に平均寿命が長いことは全国的によく知られています。加えて、日常動作が自立している期間の平均、いわゆる「健康寿命」が男女ともにトップクラスとなっています。健康増進課では世界一の健康長寿を目指す取組として、「信州ACE(エース)プロジェクト」という、運動、健診受診、食事という観点から健康づくりを啓発する県民運動を推進中であり、そういった働きがけもこのような結果の背景になっていると推測されます。次に高齢者の社会参加活動や仕事への参加頻度について、本事業では、高齢者の社会参加という点に焦点を当てて取り組んでおりますが、現在のところ社会参加や仕事への参加頻度については、それぞれ活動してないという答えた人の割合が4割を超えました。ただ、その中でも地域の生活環境の改善、美化活動については比較的参加

率が高くなっており、これらの活動の中では参加しやすい活動であると考えられます。参加していると答えた人の割合が最も高いのは、収入のある仕事であり、唯一3割を超えています。定年延長の動きもありますので、今後はその割合がさらに高くなるかと思えます。

本事業の背景について説明いたしましたが、次に今年度から始まった総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン3.0」での本事業の位置づけについてです。基本目標を達成するための5つの柱である、「誰にでも居場所と出番がある社会をつくる」の中に「高齢者の活躍の支援」が明記されており、元気な高齢者はもちろん、寝たきりになっても障がいがあっても社会で居場所があり、多様な活躍ができる社会をつくれるように、当課では高齢者の生きがいづくりやつながりづくりの観点から本事業を推進することとしています。

続いて本事業の仕組みについての説明です。本事業は前身の「人生二毛作社会推進事業」と同様にシニアが地域で活躍できる仕組みづくりと県民会議の2本立てとなっております。本日お越しの各圏域のシニア活動推進コーディネーターが、地域の実情や課題を把握し、様々な関係機関が連携するためのプラットフォーム的な役割を担っており、シニアの社会参加活動を推進するために地域に密着し、時に圏域をまたぐ大きなスケールで、かつきめ細やかな支援を行っています。シニアが地域で活躍できる仕組みづくりは、これまで同様ネットワーク会議やタウンミーティングにおいてコーディネーターが中心となり、本日お越しの関係課や関係団体の皆様と様々な角度から連携して行っていくこととしています。

今日の中から簡単に2つほど連携の事例を紹介させていただきます。

まずは長野の事例です。

#### ○齊藤コーディネーター

長野支部のコーディネーターの齊藤です。

私からは長野市との連携について紹介いたします。

長野市では健康寿命の延伸を目指し2019年からフレイル予防の推進事業をスタートしています。フレイル予防の対象となる方は高齢者もしくは高齢者を取り巻く関係団体の方々ということになりますが、どういった形で市民の方にフレイル予防の大切さを広めていけばいいのかということで、長野市側からフレイル予防の講座を勧めるために一緒に連携したいと相談をいただきました。

フレイル予防はもちろん誰もが知っておかないといけないのですが、できれば市民が主体的にその予防の大切さを広めていくことが大事だということで、市民を巻き込んだ形でフレイル予防を進めていこうじゃないかということ打ち合わせしながら、講座を組み立てました。そして受講された方が、今度は市民のナビゲーターとして予防の大切さを正しく理解し、自らも健康になり、地域にもその大切さを振りまいていくナビゲーターとして活躍いただこうという流れになってきました。

フレイル予防の鍵となるものの一つに社会参加があります。そうした意味でもフレイル予防を推進するシニア層が増えることで社会参加活動にもつながりますので、私たちも協力しています。もちろんシニア大生もこの講座を受けたり、また高齢者に関わる関係団体、例えば公民館や老人福祉センターの中でもフレイルのナビゲーターが講座を担当するという役割をもって進めていけばよいのではないかとというようなお話もさせていただいており、フレイル予防の推進を長野市と一緒に広めている状況です。

#### ○健康福祉部 関口主事

ありがとうございます。続いて、伊那の事例です。

#### ○藤井コーディネーター

伊那支部のコーディネーターの藤井です。

私からは伊那市の通り町商店街にある「伊那まちBASE」を紹介します。

伊那まちBASEは、伊那合同庁舎のすぐ近くにある、NPOの伊那まちBASEが運営している居場所です。こちらは、夕方の3時から6時ぐらいまでは子供の時間ということで、子供たちのための活動をしています。ここ1年くらい、主に午前中の時間を使ってシニアの方々が「スマホカフェ」や「おもちゃの病院」といった様々な活動を始めています。今日はそこで伊那まちレコード喫茶が誕生するまでのお話をさせていただきます。

シニア大学の専門コースを卒業してシニア地域プロデューサーになったある方が、諏訪でレコード喫茶を始めましたが、その方のお住まいは伊那谷のほうにあり、伊那でもぜひレコード喫茶をやりたいと常々つぶやいていらっしゃいました。一方シニア大学伊那支部では、地域づくり講座の中で地域の居場所について関心を持って活動している学生がおり、その学生たちがフィールドワークとして伊那まちBASEも訪問していました。伊那まちBASEは子供たちの居場所ということでしたが、伊那まちベースのスタッフに他支部でのレコード喫茶の話をしたところ、関心を持ってくださる方がおり、今年の1月に上伊那で長寿社会開発センターが主催したタウンミーティングにお越しいただきました。そこで少し情報交換をした中で伊那まちベース側とレコード喫茶をやりたいシニアとが意気投合したので、そのままその足で伊那まちBASEに行き、それから一月後の2月22日に伊那まちレコード喫茶が実現しました。今度の12月20日が12回目の開催になりますが、地域の施設に行ってみるのはどうかとか、若い人たちも入ってくるような活動にならないとか、様々なアイデアが出てきており、それを実現させているという状況です。

このように人や場所や思いが繋がって、新しい元気なシニアの活動の場、地域の居場所が生まれています。

以上です。

## ○健康福祉部 関口主事

ありがとうございました。

今、連携事例を見ていただきましたけども、お聞きいただいたような連携が各圏域でいくつも展開をされています。関係機関とのつながりや連携の過程については、本日お配りしている、「シニア活動推進コーディネーター連携事例」の資料に各支部の事例が載っておりますのでご覧ください。また長寿社会開発センターのホームページにも「ニモウサク劇場」というページがあり、そこにも連携事例が写真つきで掲載されていますので、ぜひご覧いただき、地域づくりやシニアの居場所づくり等、シニアに関する連携に悩んでいる方や、そうした他機関と連携したいという希望がある際には、各圏域にシニア活動推進コーディネーターおりますので、ご相談いただき、連携してシニアの活躍支援ができればと考えています。

この事業の中では、今年度から現役世代に対しての普及啓発にも力を入れていくこととしています。各世代の将来に対する悩みや不安について、令和元年の「国民生活に関する世論調査」では、日常生活で悩みや不安があると回答した人が全体の8割となっています。40代から50代の世代の多くが老後の生活設計に不安を持っており、中高年が今後の人生に対してなかなかイメージできずに悩みを抱えている様子が伺えます。これまでの県民会議の中でも、中高年から、いわゆるシニアに移行する際の居場所づくりや生きがいづくりが課題であるという声や、中高年が緩やかに地域とつながっていくきっかけづくりが大切であるという意見が数多く出されてきました。こうしたことから、今年度からは事業の中で現役世代に向けたの取組を広げていく必要があると考えており、企業での研修等でコーディネーターが啓発を行うなど、中高年が将来について考えるきっかけづくりを支援していきたいと考えています。

続いて、昨年度の人生二毛作推進県民会議の振り返りについてです。昨年度の県民会議では、新事業名にもありますとおり、シニアの活躍についてワークショップを行いました。現役世代・元気シニア・様々なハンディを持っているシニアのそれぞれの活動事例の発表を踏まえ、それぞ

れにどのような活躍が考えられるかについてグループワークをしました。「活躍」と聞くとどうしてもアクティブな活動や積極的なボランティア活動のようなイメージがあるかと思いますが、認知症になっても、体が不自由になっても、その状況に合わせてできることがあり、それがその人個人の生きがい、活躍であり、それが居場所づくりにつながるということを全体で共有させていただきました。

最後に本日ワークショップについて説明させていただきます。本日御参加の皆さんはまだシニア世代と呼ぶには早い世代の方も多く、シニアの活躍や居場所づくりについて考えるということは現時点ではなかなか難しいかと思えます。そこでワークショップでは、シニア世代に対するフューチャーデザインのような考え方で、多くの方がシニア世代となっていると考えられる30年後の将来について想像していただき、まずは個人や地域・社会のありたい将来を自分事として考えていただきたいと思えます。30年後というと、現在の急速な技術革新の中では想像するのがなかなか難しいと思われるかもしれませんが、そうしたことも踏まえて自由に想像していただき、その中でありたい姿を想像していただきたいと思っています。その後、そのありたい姿に対して、現在からどのような取組ができるか、またしていくべきかについて個人として、今日ご参加の組織としてどういったことができるのかをお考えいただきたいと思っています。

本日の会議の後には少しでもシニア世代を自分事として考え、この高齢社会の中でシニア世代の活躍や生きがい・居場所づくりを少しでも意識して各々事業等に取り組んでいただくきっかけとしていただきたく、ご協力をお願いできればと思っております。

健康増進課からの説明は以上です。

#### ○内山理事長

今日のワークは未来の視点に立って、現在を見る。いわゆるフューチャーデザインワークショップです。バックキャスティングといって、未来から現代を見て、未来はどうありたいのかということを中心にイメージしながら、それに向けてこれから我々は何をしたらいいのか、どんな備えをしていったらいいのかということを考えるワークになろうかと思えます。

関口さんから30年後という設定がありました。皆さんはお若いので30年後はまだまだ活躍されていると思えますが、私は30年後、110歳であります。おそらく、99.9%はこの世にいないのではないかと思えますが、もし生きながらえていたら自分は30年後にどういう暮らしをしたいのか、ということを変更してこのワークのために考えてみました。そうすると、連れ合いが先に逝くかもしれないし家族もいないので1人っきりになってしまう。1人で元気でいれば、自立して自分の飯や何でもできるかもしれませんが、それも危なくなってくる。そんなとき自分はどう生きているだろうか、居場所と出番を確保していただけるだろうかと考えたときに、甚だ心細くなってしまったんですが、一つイメージが分かりました。孤立したくないということです。そして孤立せず誰かとつながって生きたいとすれば、今のような家族の在り方という考え方を捨てるべきではないか。地域にはいっぱい孤立して独り暮らしのお年寄りが増えると思えます。その人たちが一緒になって、いわゆるシェアハウスで暮らす。それも年寄りだけではなくて、いろいろな世代の人たちが一緒になって暮らせるようなシェアハウスにいて、そこで何か自分らしく生き生きと、生きがいである木彫りなんかやりながら、全国ねんりんピックの芸術祭の大賞を目指して頑張っている110歳になりたいなとイメージしました。

そのためにはどうすればそういうことをサポートしてくれる人がいるだろうかということがとても心配になりました。今の行政やいろいろな機関のサポートの体制だけでは間に合わないかもしれない。そうすると、新たなサポート、メニューを考えなければならないかもしれない。そんなことを皆さんの中で自分事として考えていただきながら、皆さんにはA～Eのグループに分かれていただきましたが、その中で今日のワークを進めていければというふうに思えます。

でも急に30年後の話をしたので雰囲気は固いですね。ということで、今日は構成団体が8団体、

庁内の関係課が10課、事務局から4人、長寿社会開発センターから10人と、普段会う事のないメンバーが集まっていますが、まず初めに5分間、会場を自由に動き回って、グループ以外の人と簡単な自己紹介をするパーティー風自己紹介ゲームから始めたいと思います。知らない人のところに行ってお互いに自己紹介を交わして、5分の間に何人と挨拶ができるかというゲームです。それでは始めます。

#### 5分経過

時間が来ましたのでそこまでにしましょう。お席にお戻りください。

短い時間だったのでお話しできた人は限られてたと思いますが、日頃お目にかからない人たちと今日は出会いがあったということで、これを機会にまた交流を深めていただきたいと思います。

それではワークに入っていきますが、今日のために事前にアンケートに回答いただいています。今日のご回答いただいた方一人一人からお話を聞きたいのですが、時間が関係で一部の方に聞いてみたいと思います。ご自分の所属で、未来に向けて力を入れている施策などを教えていただきたいと思います。

まずは、長野県社会福祉協議会、いかがでしょうか。

○長野県社会福祉協議会 高橋主事

県社協の高橋です。県社協は「長野県あんしん未来創造センター」という場があります。

○内山理事長

本当に安心にしてくれますか。

○長野県社会福祉協議会 高橋主事

はい、頑張ります。

○内山理事長

ありがとうございます。

続いて広報・共創推進課、いかがでしょう。

○県民文化部 広報・共創推進課 宮本主事

組織としては対話を重視した行政運営の推進を行っており、県民の皆さんと様々な主体との共創を目指しています。

○内山理事長

なるほど。対話というのは、行政主導ではなくて県民と一緒に様々なプログラムを考えたりするということですか。

○県民文化部 広報・共創推進課 宮本主事

そのとおりでございます。

○内山理事長

ありがとうございます。

続いて観光誘客課、いかがでしょう。

○観光部 観光誘客課 水越主任

観光部観光誘客課では、ユニバーサルツーリズムを推進しています。障がい者や高齢者も含めて皆が安心して長野県を楽しんでいただけるような観光地を目指しており、各種施策を推進しているところでございます。

○内山理事長

私が110歳になっても、好きなところに行けるというそういう仕組みを目指しているんですね。

○観光部 観光誘客課 水越主任

はい、そうできるように今頑張っております。

○内山理事長

よろしく申し上げます。

続いて地域福祉課。これはまさに地域福祉の問題ですね。

○健康福祉部 地域福祉課 徳永推進員

私たち地域福祉課では、先ほど健康寿命の話がありましたが、そうはいつでも認知症になってしまったり、判断能力が不十分になってしまう方もいらっしゃるなので、その方たちでも安心して暮らせるように、成年後見制度という制度を推進していきます。

○内山理事長

安心して110歳になっても私はぼけられるんですね。

○健康福祉部 地域福祉課 徳永推進員

ぼけないと思います。

○内山理事長

既に始まっておりますが……。ありがとうございます。

続いて文化財・生涯学習課。

○教育委員会事務局 文化財・生涯学習課 油井指導主事

教育委員会の文化財・生涯学習課です。私たちは信州型コミュニティースクールで、学校と地域をつなぐコーディネーターとどのような活動作っていけるか試行錯誤しながら取り組んでおります。

○内山理事長

ありがとうございます。

続いて長野県産業振興機構。

○長野県産業振興機構 青木主事

長野県産業振興機構としては、直接的な事業というのはないのですが、機構の職員に民間で様々な見識を持った方をコーディネーターとしてお迎えしており、様々な業務を任せて取組を進めていただいていますので、そういったところで機構としても活躍していただきたいと思っています。

○内山理事長

年を取っても出番がある社会ですよ。

○長野県産業振興機構 青木主事

そうですね。65歳を過ぎても、70歳のコーディネーターもいらっしゃいます。

○内山理事長

そして、年をとるにつれ障がいや様々な不自由も起きてきますが、障がい者支援課としてはいかがでしょうか。

○健康福祉部 障がい者支援課 大井共生社会推進係長

はい、障がい者支援課です。農福連携ということ始めておまして、担い手不足の農業と仕事を増やしたい、向上したいという障がい者とのマッチングの事業をさせていただいております。

○内山理事長

ありがとうございます。

続いて信州暮らし推進課。

○企画振興部 信州暮らし推進課 大平主任

信州暮らし推進課では、移住の関係をやっています。長野県に暮らしたい、住みたいという方を支援しています。また、

長野県内にいる地域の方と、県外で住んでいて長野県の地域に関わりたいという人のつながりをつくる事業をやっております。

○内山理事長

長野県に移住したいという人も今すごく増えているんですね。

続いて産業人材育成課。

○産業労働部 産業人材育成課 吾妻主任

産業人材育成課では、離転職者向けの職業訓練を実施しており、その中で高齢者の方も安心して再就職ができるように、スキルアップのお手伝いをしております。

○内山理事長

100歳過ぎてもできるような技を見つけられますか。

○産業労働部 産業人材育成課 吾妻主任

大丈夫だと思います。

○内山理事長

期待しております。

次に、農村振興課。

○農政部 農村振興課 松本担当係長

農村振興課では、定年帰農者向けの講座や、農ある暮らし相談センターを開設しており、定年後、元々持っていた農地を活用したい方や何か作りたいといった方を相談やニーズに対応するための事業を行っています。

○内山理事長

ありがとうございます。  
そして介護支援課、介護が必要になってきますね。

○健康福祉部 介護支援課 小澤主任保健師

介護支援課では通いの場を推進しています。また、市町村の行う地域包括ケアの推進をバックアップし支えていますので、市町村と一緒に頑張っていきたいと思います。

○内山理事長

ありがとうございます。  
続いて、観光機構。

○長野県観光機構 赤岡氏

観光機構では、特に今観光の地域づくりに各市町村が取り組んでおり、その中でシニアの皆様が活躍できるような場所を考えていきたいです。

○内山理事長

シニアの活躍の場ですね。ありがとうございます。  
続いて介護支援専門員協会、いかがでしょうか。

○長野県介護支援専門員協会 川相理事

長野県介護支援専門員協会はケアマネジャーの団体のため、団体としての取組というよりかはケアマネジャーが個別に支援をしています。要支援・要介護・虚弱になった方の活躍の場は、地域資源と結びつけますが、その地域資源がない場合、地域の皆さんと協力しながら地域資源の創出についてもお手伝いができると思っています。

○内山理事長

皆さんにお聞きしたかったんですが時間の関係でここまでとします。

ということで、皆さんは既にこれからの社会に向けていろいろな仕組みを考えていらっしゃるということですが、先ほど健康増進課から説明がありましたが、30年後をイメージできるでしょうか。どう生きたいという考えはあるでしょうか。それは個人としてこんな社会になっていけば自分の生きたい人生を生きることができるなと思いますが、そのためにはやはり自分だけではできず、地域や社会がどうなっていてほしいでしょうか。

1回目のワークショップでは、30年後の将来、個人として、地域・社会としてどうなっていてほしいかについて考えていただきます。ピンクの付箋に個人として、ブルーの付箋に地域・社会として、それぞれどう在りたいか、在ってほしいかを自由にご記入いただき、付箋に張り付けていってください。そしてファシリテーターを中心に出てきた意見を整理していきましょう。

バックキャストिंगですから、自由にイメージを働かせて、奇想天外なイメージでも結構です。

－ 1回目ワークー

2回目のワークショップでは、1回目のワークショップで出たことを実現するために何をした

らいいかということを考えていただきます。「個人としてどうしたらいいのか」をイエローの付箋に、「組織として何をしたらいいのか」をグリーンの付箋にそれぞれ記入していただき、それを出し合って議論を深めていただければと思います。組織や、行政でいうと各部局を意識していただき、どういうふうに在りたい姿をサポートできるのかというところに結びつけていただければと思います。

## － 2回目ワークー

はい、お疲れ様でした。残りの時間でプレゼンの時間に入ります。2分間発表いただき、最後キメポーズで締めましょう。

それではまずAグループ。よろしくお願いします。

### ○Aグループ

まず、大きく分けて「健康」、「コミュニティー」、「趣味」、「学習」、「移動」などに大きくジャンル分けをしました。30年後の在りたい姿として、まず楽しむことをいつまでも忘れないでいたいというのがあり、いつまでも笑顔で仕事も個人の活動も両方続けることなど、充実感を味わいながら好きなこと生き生きとしていたい。そのためには、時代の変化にもしっかり対応についていき、社会としてはそういう変化に対応するために助けてくれる人や施設があるといいなと思います。あとは、そうはいつでも自分の健康が一番大事じゃないかということで、自己管理をしながら健康で生きがいを持って生きていくことが大事だと思います

「つながる、届く、聞こえる地域社会」というタイトルですが、コミュニティー、地域や元気、健康はみんなつながっているということで「つながる」。「届く」と「聞こえる」は、県民の声がよりダイレクトに県の組織や皆さんの組織に届くとことにより事業ができる。そうなるはずとすてきなと思います。

『つながる！届く！聞こえる！地域社会！』

### ○内山理事長

はい、ありがとうございます。

次はBグループ、よろしくお願いします。

### ○Bグループ

Bグループです。とにかく「推し活」。とにかく「人とのつながり」。とにかく「お金は大事」。とにかくこれからの時代、「技術革新」と「みんなのモチベーション」。

キーワードとしては、「生涯現役」、「多世代」、「人脈づくり」、「マッチング」、「コーディネーター」が大事ということが出てきました。ということで、

『どれ一つ欠けても駄目だぜ！』

### ○内山理事長

はい、決まりました。

続いてCグループ、よろしくお願いします。

### ○Cグループ

Cグループのコンセプトは「幸せ」。幸せのキーワードは2つ、「全世代」、「全包围網」です。

根本的にあるのが「楽しく」、30年後も楽しく生きたいと思います。また「つながり」のある暮らし、どこに暮らしていても大事な情報がいつでも取れ、「優しさ」のある社会となってほしいと

思います。優しいとは、単純に優しいという意味と、「簡単で分かりやすい」ということでもあります。

『30年後が楽しみです！』

○内山理事長

ありがとうございました！

続いてDグループ、よろしくお願いします。

○女性

Dグループです。Dグループで出てきたキーワードは「お金」、「仲間」、「職」、「笑顔」。そのために「安全」、「安心」、「否定されない」、「一人にならない」というキーワードも出てきました。それを実現するためのこととして、コロナで失われた「リアル」もキーワードかなと思います。

これら踏まえて、私たちのまとめは、

『身近な人とおしゃべりしよう！リアルな双方向！』

○内山理事長

ありがとうございます。

それでは最後、Eグループです。よろしくお願いします。

○女性

Eチームです。ディスカッションしている間でいろいろなキーワードが出てきました。

みんなが働けるように、スキルアップできて「働く」場所もあることが大事だなと思います。

また、これからインターネット社会なのでインターネットを使えないは通用しないということで、組織的にはうまくインターネットに集約されればいかなと思っています。いつでも誰でも集える「居場所づくり」も大切です。あとは「お金」。それとやっぱりあなたじゃないとという「出番」があればいいなと思います。それから、心身ともに「健康」であること。健康がないと出かけることもできないですし、いろいろなサービスにかかることもできません。そしていざとなったときに頼れるサービス、福祉があることが大事です。総括して、

『心身ともに健康であるために人とつながれる居場所と出番がある社会！』

○内山理事長

皆さんありがとうございました。

それぞれ個性的な表現やキーワードがありました。

それでは、主任コーディネーター戸田さんに内容をまとめていただきましょう。

○長野県長寿社会開発センター 戸田主任シニア活動推進コーディネーター

お疲れさまでした。それぞれのグループでキーワードがたくさん出ており、本当にそれが全てだなという感想ですが、発表の中で一番多かった言葉「つながり」、「つながる」でした。このワードが30年後の安心につながるのかなということで、今から意識してそのつながりをつくることが大事であり、それは個人から組織・団体、また逆もしかりですが、つながりにより情報が入ってくる。分野はみんな違いますけれども、「つながり」というキーワードが最大の共通だったかなと思います。

もう1点、事前アンケートやワークショップ前の理事長からの質問に対して皆さんから出てきた返答が、コーディネータ的な役割の人が大変必要となってきている分野が多く、人を育てていく「人材育成」が非常に大事なキーワードだったような気がします。

またあるグループからは、実はこうして話してみると知らないことがたくさんあり、活用できるサービスや制度などの様々な仕組みがあるため、まず知らないと駄目だよねという話が出ており、ぜひ今日出たキーワードを持ち帰っていただき、自分の組織で咀嚼しながら少しでも取り入れていただけると県民会議をやった意味もあるかなと思いました。以上です。

○内山理事長

ありがとうございました。

いろいろなキーワードが出てきましたけれども、「どれ一つも欠けても駄目だぜ」が良かったです。

とてもタイトで皆さん十分話し合いをする時間なかったんですけども、県民会議に参加していかげんだったでしょうか。

○男性

今回初めて参加させていただいたんですが、いろいろな人と関わり合えてとても学びのある時間でした。

○内山理事長

日頃出会えない人と関わりましたね。

どうでしたかね。

○男性

とてもためになりました。ありがとうございました。

○内山理事長

いかがだったですか。

○男性

実際に将来のことをあまり考えてなかったもので、30年後を具体的に考える機会になったかなと思います。

○内山理事長

確実に来ますからね。

どうですか、参加して。

○男性

今日の出会いがつながっていく、そういうふうに考えました。

○内山理事長

出会いが今後につながる。これもすばらしいですね。

最後に水色のポストイットに、今日特に感じたこと、気づいたこと、よかったことを書いて横造紙に貼ってください。何でも自由な記載で結構です。

皆さん、よろしいですかね。そうしましたら、戸田さんから1グループ1人ずつ、どんな気づきがあったのかを紹介してください。

○長野県長寿社会開発センター 戸田主任活動推進コーディネーター  
はい、ではAグループ。「面白そうなことができそうな予感。県の人たちって面白い」県社協 高橋さん。

○長野県長寿社会開発センター 戸田主任活動推進コーディネーター  
Bグループ「オール長野で30年後を見据える商工会」、商工会連合会 待井さん。

○長野県長寿社会開発センター 戸田主任活動推進コーディネーター  
Cグループ「話をすることは大切だ・・・コミュニケーション⇒幸せ」長野県観光機構 赤岡さん。

○長野県長寿社会開発センター 戸田主任活動推進コーディネーター  
Dグループ「実は、目指していること、願っていることは共通していて、つながっていくことが感じられました。感謝です。」文化財・生涯学習課 油井さん。

○長野県長寿社会開発センター 戸田主任活動推進コーディネーター  
Eグループ「社会的、制度的にも人生100年時代を見据えた準備が必要」健康増進課 田上課長。

○内山理事長  
はい、ありがとうございました。  
ということで、最後に田上健康増進課長、まとめて締めてください。

○健康福祉部 田上課長  
皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございました。  
様々な視点から、人生100年時代を見据えたこれからのシニア世代の活躍の姿や課題、推進に向けた取組について自分事として考える機会になったのでしょうか。たくさんの意見をいただきありがとうございました。  
今後この県民会議で皆様と課題や方向性を共有しながら、シニア世代のますますの活躍を目指して一緒に取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご協力のほどよろしく願いいたします。  
今日はありがとうございました。

○健康増進課 高山企画幹  
以上をもちまして、令和5年度人生100年時代シニア活躍推進県民会議を閉会いたします。  
今日はありがとうございました。